

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874700426		
法人名	かすみ福祉サービス有限会社		
事業所名	グループホーム赤とんぼ		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区守柄1351番地		
自己評価作成日	平成27年6月20日	評価結果市町村受理日	平成27年8月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が寝たきり状態になっても、介護支援を行う。カルタ取り、動物合わせ、パズルなどを通じて脳の活性化を図る。また、外出の機会を設ける。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigovosCd=2874700426-00
----------	---

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

香美町の山間にある事業所で、自然に囲まれた静かな民家が並ぶところであって、その民家改修型の事業所である。地域に溶け込んで、一軒家の改修のため、外観、玄関はそのままで、入りやすい雰囲気がある。玄関先、縁側にはプランターなどに花が植えられており、来訪者を迎えている。事業所の玄関には、規則や理念などが掲示されている。スロープと階段が設置されており、車椅子でも入りやすい。廊下を広いとはいえないが、介助者とおもに十分通れるスペースがある。家屋の構造を工夫し各居室が改装されている。広くはないが、それぞれに生活に必要なもの、衣類を入れる収納やベッドに布団がしつらえられている。ほとんどの利用者が介助を必要としているが、残存機能も使いながら、一緒に暮らしていけるように、管理者はじめ全職員は協力して運営している。職員が皆勤続年数も長く、利用者と共により良い暮らしができるよう、自然とも共生しながら日々の生活の支援に取り組んでいる。管理者はじめ職員は、利用者皆さんを最後まで看取る思いで支援しており、その考え、理念は、意識され、実践されている。今後も地域でなくてはならない事業所として、地域に溶け込んで、取組みを続けて欲しい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館 6階		
訪問調査日	平成27年7月28日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいが 3. 家族の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	充分ではありませんが、概ね理念を共有していると思います。	玄関に3つの理念として、「1個人の尊重.2家庭環境のケア.3利用者」と地域住民との共生」を掲示している。しかし、全職員の共有には至っておらず、理念についての話し合いの場も少ない。	職員は移動もなく定着しており経験も豊富であるが、日々のケアについての原点である理念に立ち返って、実践の具体化に繋げてはどうか？
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	歩行できる人が少なく、できていません。	歩行に介助が必要な人が増えて、直接行事に参加できることは少なくなっているが、お祭りで屋台が事業所の前まで来てくれたり、子供のお菓子を準備したりしている。また、野菜を近所からいただいたり、外出時挨拶したりと交流を図っている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会がなくて、できていません。	/	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催しています。	2ヶ月ごとに自治会長や民生委員・包括支援センター・保健師・薬剤師・家族の参加のもと、定期的で開催している。その会議ではグループホームの利用状況や日常生活の状況、通院の状況や主な出来事などを報告し、意見交換している。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	築いています。	介護保険制度の改正時や制度上分かりにくいことなど、役場に行き尋ねたりしている。管理者の人脈で、いろいろな人との関係や助言をいただいたり出来ている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠だけは、しています。	玄関の施錠については、一人で外出すると猪や蜂が多く危険なため、安全の為に続けている。身体拘束について日々の話しの中で共有を図っているが、全職員の理解には至っていない。	身体拘束をしないケアについて玄関の施錠も含め入居者の安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援する工夫を研修や話し合いなどで検討してほしい。

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、虐待に注意しています。	虐待はしてはいけないという考え方の共有は日頃の話の中で確認し、管理者が研修に参加し指導も行われているが、職員自身は、管理者からの伝達や指導を受けることにとどまっている。	職員それぞれも高齢者虐待関連法の理解を深め、その遵守に向けて研修や勉強会を実施しては如何でしょうか。
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	していません。	管理者が日々の支援における相談は役場や包括支援センター等と行っているが、活用する利用者はおらず、権利擁護についての研修は行っていない。	今後の利用者の状況によっても必要になる可能性がある情報なので、職員も制度についてや具体的な支援について、研修などで学ぶ機会をもってはどうでしょうか？
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時におこなっています。	契約時の説明は管理者が行っており、家族・本人からも思いを聞きながら理解を深めている。事業所独自の承諾書も合わせて説明し、事業所の出来ることや限界も納得いただいて入所決定している。	
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その都度、運営協議会の指摘を受けて、運営に反映しています。	運営推進会に参加する家族がいたり、面会に来所された時、希望や意見を聞くようにし、入居者の状況に合わせた方法で行っている。毎月の様子を書面で報告し、思いや要望を聞いている。	
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護の方法など、職員に指導しています。	職員と管理者との話し合いはほぼ毎日できており、お互い尊重しながら意見交換を行い、負担が大きくなるような勤務の体制等、検討されている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年度は、エアコンを設置します。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度は介護福祉士に合格いたしました。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	できていません。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最近、外泊・外出を進めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスは利用していません。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	徘徊、衣服など利用者が利用者を指導する関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気持ちはありますが、できていません。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お寺、小学校など車でいきます。	馴染みの場所への外出は、歩行が不安定で難しくなっているが、受診介助で外出した際、お寺などの希望の場所へ一緒に行くようにし、少しでも関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	茶碗洗い、後かたづけなどで支え合っています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状では出来ていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	充分できているとは、いえません。	職員の経験も長く、日々の入居者の様子の変化に注意して把握するよう、声かけや観察を行っている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らし方までは、出来ていません。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に観察し把握しています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングをして介護計画を作成しています。	日々の職員との話しや家族の希望を基に、管理者が計画とモニタリングを作成している。モニタリングについては、毎月家族に報告したりしている。しかし作成した計画書について目標等の職員との共有が十分ではない。	勤続年数が長い、経験豊富な職員のため日々の対応は実施できているが、自立支援に基づいた計画書の作成・共有やケアのあり方についての検討を深めて欲しい。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ています。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ていません。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていません。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	来ています。	入居者それぞれのかかりつけ医をもち、その受診の支援も行っている。また、近くの診療所からの往診も依頼したり体制を整えたりしてきている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ていません。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っています。	入居者が入院した際、病院や家族との連携を図り、早期に退院できるよう相談したり支援したりして医療機関と協働している。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは、行っています。	入所時の契約を交わす際、承諾書を説明し、重度化や終末期のケアで事業所ができることと、本人・家族の希望や思いを確認し、できるだけ希望に沿い対応できるケアを検討している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者が主に行っています。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との応援体制を築いています。	年2回の消防との訓練は実施できており、元気な入居者と伴に行っている。また、隣近所の住民との関係作りも大切にされ、その連絡先を応援体制として電話横に明記している。	

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っています。	入居者一人ひとりに優しく丁寧に対応し、思いやその人らしさを大切にケアしている。屋食時、職員や社長と一人ひとりの変化や言動を伝え合い、皆で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	2~3人います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由にしてもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人、いつも化粧されている人があります。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オヤツの分配程度です。	毎日の食材は、職員が交代で買い物している。調理も現在では、一緒にできる利用者がおられず、職員が行っている。利用者とのコミュニケーションの中で、食べたい物や献立にも希望をできるだけ取り入れるようにしている。近くの畑では、季節の野菜の栽培も行っており、可能ときには、世話や収穫を一緒に行うこともある。食事の準備や片付けの取組みは確認できなかった。	毎日の生活の中で、食べることについて、利用者個々にできることを探して、些細なことから一緒にする取組みをされることが望まれる。畑や、周りにある自然も活用しながら、この事業所での暮らしを共にという意識を全員で共有し実践に繋げてほしい。嗜好調査や献立についてもできることから、利用者に参加してもらえよう今後の取組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスなどは、あまり考えていません。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ウガイなど、行っています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便調整をしています。2人程度です。	排泄介助について、職員は、できるだけ利用者自身の意思を尊重し、オムツでなく下着での生活をしていただける3人、紙パンツの方6人の介助を協力して日々のケアの中で行っている。利用者一人ひとりの排泄パターンを意識しながら職員が動いている。又、トイレ誘導できる利用者にも紙オムツ使用の利用者についても、自立にむけた暮らしの中での排泄の支援、声かけ等を協力して行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	プルセニド・ラキソベロンなどで調整しています。			
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ここにそった支援はできていません。	入浴を積極的に希望する利用者はいないため、週に2回のペースで、れぞれが入浴できるように予定して支援している。担当者を決めて、利用者が安心して入浴できるように、いつもの職員が介助している。また、個々の利用者のその日の体調をみながら入浴の支援している。入浴を楽しむことへの支援については、現在取組みが確認できなかった。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	やもうえず、眠剤を使用しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導をうけています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出で季節のものを食べる計画を立てています。			
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	秋には紅葉見学を考えています。	利用者個々の希望がなかなか聞けない中、日ごろの生活の中で、外出の機会をつくっている。冬は雪が積もり、夏は、蜂やいのししなどの侵入から利用者、職員を守りながら、利用者の安全を確保しての外出の機会を見つけて実施している。すぐ前には川が流れ、桜並木があり静かな散歩道があるので、できる時には縁側にいたり、お地藏さんまで歩いたり、近くの山登りをしたりしている。自然豊かな環境ならではの支障もあるが、可能な限りの支援をしている。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していません。お金は預からないことにしています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人だけ、されています。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に写真程度です。	桜並木の道から路地をちょっと入ったところの縁側には、ほおずきの緑のスクリーンが居間に入る強い陽射しを和らげている。プランターの花や植木も整備され、蜂よけの網戸も欠かせず、風も入るようにしている。食堂兼居間は、テーブルの組合せで、食事時や他の時間で使い方が変えられる。利用者の居心地の良さを考慮したり、個々の動きを考えて、席も決まっている。ほど良い光も入り、風も通るように考えてある。廊下や居間など余裕のある空間ではないが、それぞれの利用者と職員が暮らしの中で過ごしやすく、生活用日の置き場所や、廊下には物を置かずに動きやすくするなど、工夫されている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少しだけ、あります。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	あまり出来ていません。	居室は、本人家族との相談で、自宅より持ち込まれる家具や私物が少しある。写真や作品なども置かれているが、居室で過ごす時間より、食堂で過ごす時間が多い。トイレまでの距離があるため、各居室には、ポータブルトイレが設置されて、個々のペースで排泄介助が安全にできるようにされている。限られたスペースで、利用者が動きやすく、安心して休めるようなスペースとなっている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫はできていません。		